

しあわせな学校生活を 送るために！

一人ひとりの学びが保障され、ありのままの自分で居られること、共に成長できる。そんな学校の在り方が求められています。公立学校改革を進める実例を紹介いたします。

は選択できる仕組みの他に、生活能力を身につける特別講座もあります。もし、授業が面白くなかったら、プレイルームで過ごすのもOKです。先生達の目標は、プレイルームに負けない授業づくりです。サポーター教員がいるため、先生は、授業づくりに時間をさける配慮がされています。「授業が面白ければ、いじめも不登校もなくなる」との黒沢校長の言葉が印象に残りました。

千代田区立麹町中学校

見張る学校から 見守る学校へ

答えは一つだと思いつまされてきた画一的な学びを多様な学びに変えるのは、トライアンドエラーを当たり前にする。授業中に寝ている子、教室に入れない子、抜け出す子、どんな状態であっても、教員はありのままを受けとめ、子どもと向き合う。決して怒らない。子ども

もが苦しめない環境づくりを、教員同士で対話を繰り返すことで、大人がまず変わる仕組みを作っていく。子どもの自律や思考を妨げないように意識することも重要！

世田谷区立桜丘中学校

インクルーシブの再定義

チャイムなし、校則なし、定期テストなし。

一年生では、いじめはあるが、お互いが違うことに気づき、受け入れられるようになり変わっていく。特別な支援が必要な子どもにとりわかりやすい授業は、すべての子ども達にとって過ごしやすい、わかりやすい。お互いの違いを認め合うことが当たり前のインクルーシブ(包摂的)な学びの場になります。校長室や図書室も大事な学びの場になっていました。



映画「みんなの学校」のモデル 大阪市立大空小学校

すべての子を受け入れるインクルーシブ教育を実践。特別支援教育やインクルーシブ教育が後からついてきたと。知的障がいや発達障がいの子どもと一緒に学ぶにはどうすればいいかをみんなで考えたらこうなった。多様な子ども達から大人が学んでいます。



高尾山学園のプレイルーム

八王子市立高尾山学園 教室に子どもがいるのは、 当たり前ではない

平成16年に不登校対策拠点校(小学校・中学校)として開設されました。様々な理由で不登校状態にある児童生徒が通学しています。授業



千代田区立麹町中学校 工藤校長の講演
教室から出てしまう生徒がいても、怒らない関わりを心がけ、子どもの自律を促す支援を継続して画一的な学習から多様な学習の提供をおこなっています。